

教員養成の目標及び目標達成のための教育計画

子ども学専攻は、本学子ども学部子ども学科における教員養成をさらに発展させるとともに、生活支援科学研究科の理念に基づいた高度な専門職業人を養成することを、教育研究の目的としている。幼児期から児童期にかけての子どもの発達の理解のうえに、教育学を中心に心理、保育、福祉、環境等の隣接分野も含めた子ども学の学問体系を修めて研究を深めると同時に、学校現場におけるフィールドワーク等の実践を通して子どもの生活をトータルに理解し、個別的な支援を行うことができる高度な課題解決力、卓越した実践的指導力を有する教員の養成をめざす。

こうした子ども学専攻の理念と性格から、「子ども学を根幹に、生涯にわたる人間教育を視野に入れた子どもの育ちと教育・保育・支援のあり方についての科学的理解に基づき、理論と実践を統合的に身につけた教員養成」を、本専攻における教員養成の理念としている。

子ども学専攻において養成したい教員像は、以上のような教員養成の理念のもとで、高度な実践力をもった専門的職業人として、自己の使命と責任を自覚し、生涯にわたって自律的に社会に貢献すると共に、必要に応じて他の専門領域実践者との連携を図りながら、地域の一員として寄与する能力を有している教員である。

以上のような教員養成の理念を実現するための構想は、本専攻のカリキュラムと学修の過程に具現化されている。

まず、1年次に「基幹分野」として子ども研究の基盤を学ぶ「子ども学特論」を配置し、必修科目とする。また、幼児期の子どもの生活支援と教育のあり方を学ぶ「子ども学実践演習Ⅰ（幼児期）」、児童期の子どもの生活支援と教育のあり方を学ぶ「子ども学実践演習Ⅱ（児童期）」を「基幹分野」に配置して選択必修とする。

次に選択科目として、子どもの教育や生活支援の方法を個別的観点から考究する科目を、「教育分野」「教科・領域分野」「支援分野」に区分して配置する。

また、小学校教諭専修免許状および幼稚園教諭専修免許状を取得できる課程を設け、教育学・心理学の基礎理論を深化して各教科・領域の指導法を開発するとともに、教育現場の今日的課題に対応しうる高度な応用力、課題解決能力を育成する科目を配置する。

さらに、生活支援科学研究科の共通科目（必修）である「生活支援科学特論」（1年前期）を履修することで、地域生活支援学、健康栄養学、臨床心理学、リハビリテーション学の各専攻所属教員から、様々なライフステージにおける生活場面への支援のあり方と方法についてトータルに学ぶことができる。

2年間の学修の集大成ともいえる修士論文では、子どもの育ちと教育・保育に関連した領域で、各学生が自ら選択したオリジナルなテーマに沿って課題探求、課題解決的学修を継続的に推進し、高度な研究スキルと実践への応用能力、プレゼンテーション能力を身につける。

以上で述べたような理念と構想から、「子ども学、及び子ども学を構成する教育学等の専門分野に関する深い学識をもとに、子どもと保護者、地域に住む様々な人々と連携して、適切な支援と指導ができ、教育現場でリーダーシップを発揮しうる教員」を、子ども学専攻のめざす教員像とする。